

東日本高速道路株式会社 北海道支社  
支 社 長 長内 和彦

## 質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 清水工事

### 質問事項と回答

番号	質問事項	回答
1	共通事項 設計で使用する土木工事積算基準は令和3年度版を使用でしょうか。	土木工事積算基準（令和3年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社））を参照ください。
2	共通事項 設計で使用する工種区分は新設一般土工でお考えでしょうか。	土木工事積算基準 第2編 間接工事費及び一般管理費等 6-1 「間接工事費算定の適用工種区分」に記載のとおり、「新設 一般土工」とお考えください。
3	特記仕様書 P1 1-5 施工地域区分 施工地域区分に「市街地部（DID 地区及びこれに準ずる地区）が施工場所に含まれない工事」とありますが、共通仮設費・現場管理費率の補正は無いとのお考で宜しいでしょうか。ご教示下さい。	特記仕様書 1-5 施工地域区分に記載のとおり、お考えください。
4	特記仕様書 P25 24.現場環境改善 現場環境改善の記載が有りますが、土木工事積算基準 P2-31 に基づき算定し、計上でしょうか。	土木工事積算基準 第2編 間接工事費及び一般管理費等 8. 土木工事現場における現場環境改善費の積算に基づきお考えください。

5	<p>特記仕様書 P53 28-16 週休 2 日推進工事</p> <p>【週休 2 日推進に係る諸経費額の単価計上方法について】</p> <p>「週休 2 日推進に係る補正額を含めて算出された共通仮設費・現場管理費」と「週休 2 日推進に係る補正額を含めて、かつ共通仮設費率及び現場管理費率に補正係数を乗じて算出された共通仮設費・現場管理費の差額」を計上と考えて宜しいでしょうか。もし計上方法が違うならば詳細をご教示下さい。</p>	<p>週休 2 日推進に係る諸経費額は特記仕様書 28-16-1 に記載のとおり、週休 2 日推進に係る補正額を含めて算出された諸経費の共通仮設費・現場管理費にそれぞれの補正係数を乗じて算出された額の合計が、週休 2 日推進に係る諸経費額となります。</p>
6	<p>特記仕様書 P13 泥落し装置（乾式）</p> <p>泥落し装置（乾式）の記載がありますが、機械の種別は全輪タイプ・後輪タイプのどちらをお考えでしょうか。また、敷き鉄板の設置撤去および賃料は計上されていますか。ご教示下さい。</p>	<p>「割掛対象表 参考内訳書」に記載されている「工事車両泥落し装置費」の泥落と装置（乾式）の、機械の種別は御社の施工計画に基づきお考えください。</p>
7	<p>特記仕様書 P28 28-3 土工</p> <p>客土掘削土砂 A（日勝峠土取場）、土砂 B（新内土取場）の土質区分は土砂 B でのお考えでしょうか。土質区分をご教示下さい。</p>	<p>両土取場ともに土質区分は「土砂 B」を想定しております。</p>
8	<p>特記仕様書 P29 28-3-2 盛土工</p> <p>盛土工 A1 上部路床の施工はショベルダンプでお考えでしょうか。ご教示下さい。</p>	<p>土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社）第 8 編 土工を参照し御社の施工計画に基づきお考えください。</p>
9	<p>特記仕様書 P29 28-3-2 盛土工</p> <p>盛土工 A2・A3 下部路床の施工はショベルダンプでお考えでしょうか。ご教示下さい。</p>	<p>土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社）第 8 編 土工を参照し御社の施工計画に基づきお考えください。</p>
10	<p>特記仕様書 P29 28-3-3 高盛土排水溝</p> <p>基盤排水層 A・水平排水層 A・のり尻坑 A の材料は 16-1 に規定がありますが、購入材と考えて宜しいでしょうか。ご教示下さい。</p>	<p>御社の施工計画に基づきお考えください。</p>

1 1	特記仕様書 P11 15-1 工事用道路の指定 ⑤町道清水羽帶間道路の幅員が 5mとありますが、8mではないでしょうか。	町道清水羽帶間道路は幅員 8m以上となります。
1 2	橋梁下部工図 P26/55 P-2 橋脚構造図 構造物掘削普通部 A (P-2) の掘削土質区分と埋戻し B の数量をご教示下さい。	構造物掘削の土質区分毎の数量及び埋め戻し B の数量は設計図 橋梁下部工 2 / 5 5 等の図面を確認の上、数量を算出ください。
1 3	橋梁下部工図 P50/55、51/55 A-1、A-2 橋台裏込め工詳細図 構造物掘削特殊部 A (A-1、A-2) 掘削土質区分と埋戻し A の数量をご教示下さい。	構造物掘削の土質区分毎の数量及び埋め戻し A の数量は設計図 橋梁下部工 2 / 5 5 等の図面を確認の上、数量を算出ください。
1 4	橋梁下部工図 P20/55 P-1 橋脚構造図 構造物掘削特殊部 A (P-1) の掘削土質区分と埋戻し B の数量をご教示下さい。	構造物掘削の土質区分毎の数量及び埋め戻し B の数量は設計図 橋梁下部工 2 / 5 5 等の図面を確認の上、数量を算出ください。
1 5	特記仕様書 P44 28-11-6 仮設土留工 設置工 A はゼロクリアランス工法とありますが、機械は油圧式杭圧入引き抜機と杭打ち用ウォータージェット併用とお考えでしょうか。また設置工 B の A1 も同様に杭打ち用ウォータージェット併用とお考えでしょうか。ご教示下さい。	R3. 9. 7 付けで交付図書を訂正しており、特記仕様書 28-11-6 仮設土留工 「仮設土留工 設置工 A」については「オーガー併用圧入」としています。特記仕様書 28-11-6 仮設土留工 「仮設土留工 設置工 B」については記載のとおり ウォータージェットの併用とは考えていません。
1 6	特記仕様書 P44 28-11-6 仮設土留工 設置工 A はゼロクリアランス工法とありますが、設計において基準にしているのは全国圧入協会積算基準でしょうか。ご教示下さい。	御社の施工計画に基づきお考えください。

1 7	特記仕様書 P44 28-11-6 仮設土留工 設置工 A・B 及び設置撤去工 B の撤去及び引抜き鋼矢板は、スクラップ処理あるいは指定箇所への運搬のどちらでお考えでしょうか。詳細をご教示下さい。	仮設土留工のうち、設置撤去を行う鋼矢板の売却処分費、運搬等の費用については含まれておりません。
1 8	橋梁下部工図 P52/55、54/55 ペケレベツ川橋仮設図 ペケレベツ川橋 A-1、A-2 の鋼矢板設置工 CASE1～4 までの矢板施工根入れ長をご教示下さい。	各 CASE における鋼矢板の根入長は交付図書より算出をお願いします。
1 9	橋梁下部工図 P55/55 ペケレベツ川橋仮設撤去図 鋼矢板Ⅲ型の下端高が P52/55、54/55 と一致しませんが、P52/55、54/55 が正でしょうか。	橋梁下部工図 P52/55、54/55 の記載が正しい数値となります。
2 0	付帯工・雑工図 P16/47 高盛土排水工詳細図 堅坑ふた工詳細図の記載がありますが、計上先は地下排水接続工 A でしょうか。計上先をご教示下さい。	堅坑ふた工は地下排水接続工 A に計上されます。
2 1	付帯工・雑工図 P9/47 ブロック積工詳細図 (1) ブロック積工詳細図 (1) の表中に③の数量が記載されていますが、P10/47 の③の数量と相違しています。P10/47 数量を正として宜しいでしょうか。	R3. 9. 7 付けで交付図書を訂正しておりますので「附帯工・雑工図」をご確認ください。
2 2	単価番号 29 基礎杭 場所うちコンクリート杭はペケレベツ川 A-1 橋台と A-2 橋台にありますが、オールケーシング掘削機スキッド式全旋回型掘削機の分解組立をする場内移動は、この単価に計上でしょうか。 計上先をご教示下さい。	R3. 9. 7 付けで訂正しており、割掛対象表参考内訳書に記載のとおり工事用機械分解組立費（橋梁下部工）に計上ください。

2 3	<p>特記仕様書 P33 28-4-3 ドレーンかご工</p> <p>ドレーンかご工に使用する材料は、<math>\phi 2.6</math> 網目 5 cm (図面 0.25*0.5*2.0) とありますが、道内製造メーカーに問い合わせたところ「この規格の製品はカタログに掲載しているが製造していないので出荷できない」と返答がありました。現在道内で使用されているものは<math>\phi 3.2</math> が主流で開発局も使用との事ですので、<math>\phi 3.2</math> に変更できないでしょうか。ご教示下さい。</p>	設計図書に基づき必要な費用を計上してください。
2 4	<p>橋梁下部工図 P2/55 A-1 橋台・A-2 橋台</p> <p>① A-1 橋台正面図の場所打ち杭が L=11.5m とありますが L=11m ではないでしょうか。</p> <p>② また、A-1 杭先端は EL=239.5 で宜しいでしょうか。</p> <p>③ A-2 杭先端は EL=236.4 で宜しいでしょうか。</p> <p>④ A-1、A-2 とも場所打ち杭掘削土 N 値が 50 超の部分がありますが、設計において全域 <math>20 \leq N &lt; 50</math> の土砂でお考えでしょうか。</p> <p>ご教示下さい。</p>	<p>① 場所打ち杭 L=11m が正しい数値となります。</p> <p>② そのとおりです。</p> <p>③ そのとおりです</p> <p>④ 地質柱状図上の N 値 50 以上の地盤は地質調査の際に採取したコア等から転石であると想定しております。転石等の掘削については関連する単価に計上されています。</p>
2 5	<p>数量明細書 P2 コンクリート C2-1</p> <p>数量明細書の C2-1 函渠工トマム 16、18、19 の欄に記載のあるコンクリート合計 2.1m<sup>3</sup> はどの場所のコンクリート打設となりますか。詳細をご教示下さい。</p>	「附帯工・雑工図」4/77 小口止めコンクリート工A に記載されているコンクリート C 2 - 1 です。
2 6	<p>数量明細書 P2 コンクリート D1-1</p> <p>数量明細書の D1-1 函渠工トマム 16、18、19 の欄に記載のあるコンクリート合計 34.3m<sup>3</sup> はどの場所のコンクリート打設となりますか。詳細をご教示下さい。</p>	R3.9.7 付けで交付図書を訂正しており、函渠工トマム 16、18、19 の欄に記載のコンクリート D 1 - 1 は削除されておりますので「数量明細書」及び「附帯工・雑工図」をご確認ください。

2 7	橋梁下部工図 P48/55、49/55 場所打ち杭詳細図 橋台 A-1、A-2 場所打ち杭詳細図に無溶接工法の記載がありませんが、後日協議事項でしょうか。ご教示下さい。	場所打ち杭は無溶接金具を使用した無溶接工法としております。
2 8	特記仕様書 P42 28-11-4 仮設防護柵工 仮設防護柵設置工 A の Gr-A2B (特) はメッキ仕様あるいは塗装仕様のどちらでしょうかご教示下さい。	仮設防護柵設置工 A は溶融亜鉛メッキ仕様となります。
2 9	付帯工・雑工図 P12/47、P15/47 高盛土工 STA1214+20 のクロスアーム式沈下計の高さ H が、12/47 図では 5.1m、15/47 図では 5.2m とあります。どちらが正でしょうか。	高盛土工 STA1214+20 のクロスアーム式沈下計の高さ H=5.2m となります。
3 0	単価番号 49 客土工 (現場発生材) 客土工 (現場発生材) とは、日勝崎土取場土砂あるいは場内発生土のどちらをお考えでしょうか。また、土質区分をご教示下さい。	御社の施工計画に基づき必要な費用を計上してください。
3 1	単価番号 61 粒度調整路盤工 ( $t = 20 \text{ cm}$ ) 粒度調整路盤工 ( $t = 20 \text{ cm}$ ) は付帯工・雑工図 P17/47 の雪氷 U ターン道路の箇所と思われますが、図面名称(粒度路盤工)と数量 (1,497.4m <sup>2</sup> と 1,535.5m <sup>2</sup> ) が一致しません、どちらが正になりますか。	R3. 9. 7 付けで交付図書を訂正しており、粒状路盤工 ( $t = 20 \text{ cm}$ ) は 1497.4 m <sup>2</sup> となりますので「附帯工・雑工図」をご確認ください。
3 2	単価番号 63 加熱アスファルト表層工 ( $t = 4 \text{ cm}$ ) B 加熱アスファルト表層工 ( $t = 4 \text{ cm}$ ) B は付帯工・雑工図 P17/47 の雪氷 U ターン道路の箇所と思われますが、設計数量が一致しませんどちらが正でしょうか。	R3. 9. 7 付けで交付図書を訂正しており、加熱アスファルト表層工 ( $t = 4 \text{ cm}$ ) B は 1452.5 m <sup>2</sup> となりますので「附帯工・雑工図」をご確認ください。

3 3	単価番号 64 加熱アスファルト表層工 ( $t = 6 \text{ cm}$ ) A 加熱アスファルト表層工 ( $t = 6 \text{ cm}$ ) A は付帯工・雑工図 P17/47 の雪氷 U ターン道路の箇所と思われますが、設計数量が一致しませんどちらが正でしょうか。	R3.9.7 付けで交付図書を訂正しており、加熱アスファルト表層工 ( $t = 6 \text{ cm}$ ) A は $1461.4 \text{ m}^2$ となりますので「附帯工・雑工図」をご確認ください。
3 4	舗装改良工図 P1/66～5/66 施工時平面図 ① 路面切削工 A と A (N) の図面数量合計が、 $11,885.8 \text{ m}^2$ と $3,153.4 \text{ m}^2$ となります。設計数量、 $11,713.3 \text{ m}^2$ と $3,325.9 \text{ m}^2$ と異なりますがどちらが正でしょうか。 ② オーバーレイ工 A と A (N) の図面数量合計が、 $12,065.8 \text{ m}^2$ と $3,253.4 \text{ m}^2$ となります。設計数量、 $11,893.3 \text{ m}^2$ と $3,425.9 \text{ m}^2$ と異なりますがどちらが正でしょうか。	R3.9.7 付けで交付図書を訂正しており、路面切削工 A は $11885.8 \text{ m}^2$ 、路面切削工 A (N) は $3153.4 \text{ m}^2$ 、オーバーレイ工 A は $12,065.8 \text{ m}^2$ 、オーバーレイ工 A (N) は $3253.4 \text{ m}^2$ となりますので「金抜設計書」をご確認ください。
3 5	単価番号 44、45、46、47 路面切削工 A,A(N) オーバーレイ工 A,A(N) 規制内作業において作業時間が限られますが、路面切削機とアスファルトフィニッシャの運転時間はそれぞれ何時間でお考えでしょうか。ご教示下さい。	特記仕様書 9-4 通行止め等による工事予定 交通規制可能時間を参考の上、御社の施工計画に基づき必要な費用を計上してください。
3 6	単価番号 45 路面切削工 A(N) 単価番号 58 注意喚起溝工 A(N) 廃材処理費は夜間のため、処理業者と事前協議が必要なことから（特記仕様書 P23）、昼間単価での計上でしょうか。	廃材処理費は昼間単価としています。
3 7	付帯工・雑工図 P17/47 舗装工 アスファルトコンクリート表層工 A、B と路盤工の図面数量が設計数量と一致しませんが、どちらが正でしょうか。	R3.9.7 付けで交付図書を訂正しており、「金抜設計書」及び「附帯工・雑工図」をご確認ください。

3 8	<p>単価番号 62 加熱アスファルト表層工 (<math>t = 3 \text{ cm}</math>)</p> <p>① 簡易舗装の施工幅は 3m 超とお考えでしょうか。          ② 漆青材散布はお考えでしょうか。          ③ 不陸整正工はお考えでしょうか。</p> <p>ご教示下さい。</p>	<p>加熱アスファルト表層工 (<math>t = 3 \text{ cm}</math>) A における施工幅は 3 m 以上となり、漆青材散布、不陸整正工は考えていません。</p>
3 9	<p>単価番号 48 オーバーレイ工 B</p> <p>標準図より施工幅は 75 cm とありますが、施工は人力舗設でお考えでしょうか。また、1 日あたりの施工量をご教示下さい。</p>	<p>土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社））を参照の上、御社の施工計画に基づきお考えください。</p>
4 0	<p>単価番号 52~55 路面標示工</p> <p>路面標示工 B1 (N)、C1 (N)、D1 (N)、E1 (N) は、仮設防護柵設置後や夜間切削・オーバーレイ後の施工数量・施工時間が限定された作業と思われますが、1 施工あたり（1 日夜間規制あたり）の施工時間および施工数量をどのように（日当たりの施工数量の補正方法）お考えでしょうか。詳細をご教示下さい。</p>	<p>施工時間は特記仕様書 28-2 施工時間帯による単価表の表記区分に記載の作業可能時間を基に土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社））を参照の上、御社の施工計画に基づきお考えください。</p>
4 1	<p>単価番号 56・57 路面標示消去工</p> <p>路面標示消去工 B1 (N)、C1 (N) は、仮設防護柵移設後や夜間切削・オーバーレイ前の施工数量・施工時間が限定された作業と思われますが、1 施工あたり（1 日夜間規制あたり）の施工時間および施工数量をどのように（日当たりの施工数量の補正方法）お考えでしょうか。詳細をご教示下さい。</p>	<p>施工時間は特記仕様書 28-2 施工時間帯による単価表の表記区分に記載の作業可能時間を基に土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社））を参照の上、御社の施工計画に基づきお考えください。</p>
4 2	<p>単価番号 58 注意喚起溝工 A (N)</p> <p>設計において、使用した積算基準はどこの仕様となりますか。また、1 夜間当たりの施工数量をご教示下さい。</p>	<p>御社の施工計画に基づきお考えください。</p>

4 3	<p>道路改良工図 P 63/66 路面標示工詳細図 (8)</p> <p>路面標示詳細図の注意喚起溝工 A (N) の部分は、路面消去工 B1 (N) とあります。また、中央分離帯付近の路面消去工 B1 (N) の数量も計上されています。</p> <p>数量が極端に少ないため詳細をご教示下さい。</p>	<p>路面標示詳細図 注意喚起溝工 A (N)、路面消去工 B1 (N) の数量はそれぞれ計上されています。</p> <p>また、中央分離帯付近の路面標示工 B1 (N) は特記仕様書 28-8-2 (2) 種別に記載のとおり施工時に中央分離帯付近に施工した路面標示工 J I S 規格型 D1 (N) の消去となります。</p>																				
4 4	<p>橋梁下部工設計図面 48/55・49/55</p> <p>当該図面において基礎杭のコンクリート強度は 24N/mm<sup>2</sup> と記載されております。しかしながら、「ペケレベツ川橋下部工数量計算書」内において、その規格が「RC-11 σ ck=30N/mm<sup>2</sup>」とございます。これはコンクリートの強度は 24N/mm<sup>2</sup> 必要であり、水中部への打設を考慮し積算上は「RC-11 σ ck=30N/mm<sup>2</sup>」を計上する考えでよろしいでしょうか。</p>	<p>そのとおりです。</p> <p>「基礎杭」で使用する生コンクリート強度は「設計図 橋梁下部工」5/55、6/55、32/55、33/55 に記載のとおり 30 N/mm<sup>2</sup> となります。コンクリート種別については「共通仕様書」8-2-3 コンクリート種別 の Y 1-1 となります。その品質基準は「共通仕様書」に記載のとおり「コンクリート施工管理要領」4-1 に記載されています。</p>																				
4 5	<p>附帯工・雑工設計図面 16/75</p> <p>当該図面においてのり尻工の 10m 当りの材料として以下の表が記載されております。</p> <table border="1" data-bbox="361 964 1073 1107"> <thead> <tr> <th colspan="2">材料表 のり尻工</th> <th colspan="3">10m当り</th> </tr> <tr> <th>種 別</th> <th>規格・寸法</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィルター材</td> <td>割栗石(碎石) φ200以下</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>66.00</td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出防止材</td> <td>t=2mm</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td>32.36</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※フィルター材が0~80mmの場合は、吸出し防止材は不要とする。</p> <p>この材料表だとフィルター材は割栗石でも 0~80mm の碎石のどちらの使用でもよい選択と受け取れます。積算上、どちらの材料を計上されているのかご教示願います。</p>	材料表 のり尻工		10m当り			種 別	規格・寸法	単位	数 量	摘要	フィルター材	割栗石(碎石) φ200以下	m <sup>3</sup>	66.00		吸出防止材	t=2mm	m <sup>2</sup>	32.36		<p>どちらの材料でも使用は可能です。</p> <p>土木工事積算基準（令和3年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社））第3編 材料費 3. 材料の価格を参照の上、御社の資材調達計画に基づき計上してください。</p>
材料表 のり尻工		10m当り																				
種 別	規格・寸法	単位	数 量	摘要																		
フィルター材	割栗石(碎石) φ200以下	m <sup>3</sup>	66.00																			
吸出防止材	t=2mm	m <sup>2</sup>	32.36																			
4 6	<p>金抜設計書 番号 12</p> <p>「高盛土排水工 基盤排水層 A」で使用する材料は特記仕様書 P14 において、その性状は「のり尻工」と同等のものと判断い</p>	<p>「高盛土排水工 基盤排水層 A」に使用する材料は特記仕様書 16-(4) に記載のとおりの規定であり、最大寸法 200mm 以下となります。</p>																				

	<p>たします。「のり尻工」は附帯工・雑工設計図面 16/47 で「割栗石（碎石）200mm 以下」との表記ですが、15/47 では基盤排水層には規格・寸法の記載がございません。基盤排水層 A で使用する材料はのり尻工同様の「割栗石（碎石）200mm 以下」と考えてよろしいでしょうか。</p>	
4 7	<p>特記仕様書 P15 16-5 使用骨材等において「上記(1)の施設からの材料調達に支障が生じた場合は、監督員に通知するものとし、監督員が必要と認め変更を指示した場合は、この費用について監督員と受注者と協議し定めるものとする」との記載がございます。しかしながら、当該項目には割栗石の記載がございません。割栗石の使用についても追加して協議願います。</p>	<p>特記仕様書 16-5 使用骨材等については記載のとおり割栗石は含まれません。</p>
4 8	<p>金抜設計書 番号 73 「仮設防護柵工 移設工 A」における移設とは、積算基準書に記載されている「同一工事内で転用を行う場合は、2 回目以降の連続基礎ブロックの設置は、設置②とする。」に該当するものか、それとも「撤去+設置②」のお考えかご教示願います。</p>	<p>仮設防護柵工 移設工 A の施工内容は仮設防護柵に付随するガードレール撤去、連続基礎ブロックの移設、ガードレール再設置となり、御社の施工計画に基づきお考えください。</p>
4 9	<p>割掛対象表 割掛け契約項目「のり面仕上費」は盛土部を対象とされてますが、切土部ののり面仕上げが必要な場合は設計変更の対象と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>監督員が必要と認めた場合は変更協議の対象となります。</p>